

令和6年度 川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練の実施結果について

本訓練は、大地震発生時の川崎駅周辺における帰宅困難者による混乱を抑制するために、駅職員、警察職員による駅滞留者対応訓練、一時滞在施設の開設訓練を実施し、JR川崎駅、京急川崎駅及び各一時滞在施設の対応を確認するとともに、想定付与をブラインド方式とし、区本部の情報収集・運用能力の強化を目的としました。

1 訓練実施日

令和7年2月13日（木）10：00～12：00

2 実施場所

JR川崎駅、京急川崎駅、各一時滞在施設、川崎区役所、幸区役所、危機管理本部

3 参加機関

【駅】

JR川崎駅、京急川崎駅（＊）、川崎警察署

【一時滞在施設】

川崎日航ホテル、ミューザ川崎、川崎商工会議所、川崎市産業振興会館
幸市民館、カルッツかわさき、川崎アゼリア（＊）、川崎市教育文化会館（＊）、川崎競輪場（＊）、京急川崎駅前ビル（＊）、ラゾーナ川崎（＊）
SUPERNOVA KAWASAKI（＊）（＊）は情報受伝達訓練のみ参加

【帰宅困難者役（駅滞留者）】

川崎地域連合、まちづくり拠点整備

【訓練進行等】

川崎区役所危機管理担当、幸区役所危機管理担当、川崎市危機管理本部

【対策協議委員会委員訓練見学】※順不同

神奈川県タクシー協会、臨港警察署、幸警察署、川崎駅広域商店街連合会、アトレ川崎店、チッタエンタテインメント、東日本電信電話株式会社川崎信用金庫、キャノン川崎事業所、ラゾーナ川崎東芝ビル、かわさき市民放送、YOUテレビ、こども未来局危機管理担当、健康福祉局危機管理担当、上下水道局危機管理室、教育委員会事務局、川崎消防署、幸消防署

4 訓練想定

- ・令和7年2月13日（木）9時30分、川崎市直下の地震（M7.3、川崎区・幸区で最大震度6強）が発生し、川崎区・幸区合わせて、6,000人以上の死傷者が発生
- ・約2割の世帯で建物全壊か半壊、電気、ガス、水道等のライフラインは半数以上で停止し、電話はほとんど通じず、携帯電話等による通常の通話は不能。また、川崎駅周辺は、ビル看板の落下、窓ガラスの破損等が多く発生、屋内は商品・什器の散乱が著しい。

5 訓練項目

【各施設無線試験】

【駅滞留者対応訓練】（ＪＲ川崎駅・京急川崎駅）

【一時滞在施設開設訓練】（各一時滞在施設）

【情報受伝達訓練】（鉄道事業者・各一時滞在施設・区役所）

6 訓練実施状況



滞留者対応（ＪＲ川崎駅）



一時滞在施設開設状況



デジタルサイネージ（本庁舎前）



一時滞在施設受付（産業振興会館）

7 その他（アンケート結果等）

- ・無線が全くつながらない施設があり、避難者を受け入れられるのかが不明で困惑した。実際でも起こりうる状況のため、連絡が取れない場合は定期的に呼び出すのと、収容者数は満員だと想定しておくのがよいと思った。
- ・定例的に行っている通信訓練は具体的な災害を想定して行えていなかったため、良い意識づけになった。
- ・無線機使用が混雑していた。
- ・大災害発生時には、上下配管の折損やポンプ設備の電源遮断等により断水や排水不能になり、トイレが使用不能になることが想定されるが、そのような場合の川崎駅周辺施設におけるトイレ対策について検討する必要があると思う。
- ・無線通信において、川崎駅など距離の遠い施設の無線が入らないため、無線の通信被りが分からず、何度か通じていないことがあった。
- ・駅の情報川崎区役所の方で広げていただけると川崎駅の無線が入らない施設においても状況を把握することができる。
- ・実際に行ってみないとわからないことが多かった。図上訓練だけでなく実働訓練の重要さが分かった。
- ・一時滞在施設間での情報共有や意見交換会を実施したい。

8 まとめ

本年度の訓練は、駅、一時滞在施設及び区本部の連携を目的として、実動での訓練を実施しました。アンケート結果にもあるように、無線の混線や不通による情報不足や誤報等、実災害でもあり得るトラブルが多数発生しました。

次年度は、毎月の無線試験においても、災害時における無線通信の実施方法や、場所を変えて無線の不感地帯を確認する等、実災害を想定した試験を実施します。